



第7次の成果指標の方向性

- ・第6次で達成していない成果指標の項目は、引き続き継続して成果指標とする。
- ・第6次で達成した項目(ワークライフバランス及びDV被害者の相談窓口)は、変更せず、指標数値を第6次より高くする。

【事務局の懸念事項】

- ①セクハラ被害者の相談割合について
- ②日常生活の中で「差別があると感じない」の割合について

第6次成果指標

令和7年度 意識と実態調査等実績

第7次成果指標

男女平等の進捗で「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」の合計回答割合
33.8% (令和2年度) → 40.0%以上 (令和7年度)

審議会等における女性委員の割合
29.5% (令和2年度末) → 40.0%以上 (令和8年度)

ワーク・ライフ・バランスの希望と現実の差
20.9ポイント (令和2年度) → 15ポイント以下 (令和7年度)

※「ワーク・ライフ・バランスの希望と現実の差」とは、『「仕事」と「家庭生活」』、『「仕事」と「地域・個人の生活」』、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」』の優先度における希望と現実の差の合計を表します。

家事などの分担で男性の「いつもしている」の回答割合 → 全項目で増加 (令和7年度)

「DV被害者の相談窓口が行政にあることを知っている」の回答割合
55.9% (令和2年度) → 60.0%以上 (令和8年度報告値)

「DV被害者が「相談したことがある」の回答割合
33.0% (令和2年度) → 40.0%以上 (令和7年度)

セクハラ被害者が「相談したことがある」の回答割合
34.5% (令和2年度) → 40.0%以上 (令和7年度)

性の多様性について「LGBT又はLGBTQ+という言葉を知っている」の回答割合
76.9% (令和2年度) ※LGBTのみ聞いた数値 → 95.0%以上 (令和7年度) ※LGBTのみ聞いた目標値

日常生活の中で「差別があると感じていない」の回答割合
68.8% (令和2年度) → 70.9%以上 (令和8年度報告値)

31.90%

30.5%

14.4ポイント

11項目中4項目が増加

66.7%

37.3%

29.0%

82.1%

※両方知っている：43.6%
※LGBTのみ知っている：38.5%

54.7%

40.0%以上 (令和12年度)

40.0%以上 (令和13年度)

12.5ポイント以下 (令和12年度)

全項目で増加 (令和12年度)

70.0%以上 (令和13年度報告値)

40.0%以上 (令和12年度)

40.0%以上 (令和12年度)

95.0%以上 (令和12年度)

70.9%以上 (令和13年度報告値)